日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ

2019年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭　小南　晃

印刷所
文明堂印刷所

あなたの信仰があなたを救った

主教　オーガスチン　小林　尚明

教会の中で、よく「救われた」とか「救い」という言葉を聞くことがあります。皆さん、それぞれの意味で「救い」という言葉を使われていると思います。今回は、10月13日の主日の福音書（ルカ17：11－19）から「救い」について、学んでみたいと思います。

イエス様がエルサレムへの旅の途中、ある村に入られると十人の重い皮膚病を患っている人が出迎えました。皮膚病と言えば伝染しますから、彼らは村から追い出されて病人だけで集まって住んでいました。そして彼らは遠くに立ったまま、イエス様に「憐れんでください」、「体を治してください」とお願いします。ルカ伝の5章に同じ皮膚病の人がイエス様に癒された記事があります。そこでは、イエス様がその人に触って「清くなれ」と言われたら病気が治った、と書いてあります。今日の十人も、その話を聞いていたのかもしれません。イエス様が自分達の村に来られたら必ずお願いしよう、そうすれば自分達も癒されるという希望を持って生きていたのかもしれません。その真剣な願いに対して、イエス様は、「祭司達のところへ行って、体を見せなさい」と言われます。当時、ある人が病気かどうか、またその病気が治ったかどうかを判断するのは、祭司の務めでした。ですからイエス様は、そこに行きなさい、と言われただけです。彼らが祭司の所に行っても、もし病気が治っていなければ、追い返されるだけです。しかし、その不安を振り払って彼らはイエス様を信じて、祭司達のところへ出かけた時、彼らは癒された、と聖書は語ります。これが、イエス様を信じて一歩踏み出す勇気です。つまり、そこに奇跡が起こった、というのです。このイエス様を信じて、自分に命じられたことを勇気をもって実行する。そこに神様が働いてくださる、ということを私達も学ばなければなりません。

「あなたの信仰」

さて十人は、全員癒されました。イエス様を信じ、イエス様の命令に従ったからでしょう。しかし、九人はどこかへ行ってしまい、一人のサマリア人だけが、神様を賛美しながら帰ってきて、イエス様に感謝しました。そしてイエス様から「あなたの信仰があなたを救った」という祝福の言葉をかけて頂きました。九人は癒されましたが、救われていないのです。病気が治ること、そのことだけが「救い」ではないのです。それでは、イエス様がお誉めになった「あなたの信仰」とは、何だったのか。15節に「その中の一人は自分が癒されたのを知って」と書いてあります。この「知る」という言葉が大切で、「エイドン」というギリシャ語が使われています。本来は、「見る」と訳される言葉です。そして、この「見る」というのは表面を見るということではなく、その出来事の背後を見る、という意味の言葉です。残りの九人は、自分の体が癒されたということが分かっても、その出来事の背後が見えなかったのです。そして、このサマリア人が見たものこそ、イエス様の働きの背後に神様を見た、ということです。そこで彼は神様を賛美し、イエス様に感謝するわけです。

イエス様において「救われる」ということは願いがかなった、ということでは終わらないのです。それは始めであって、イエス様の働きの中に神様の働きを見、神様を賛美し、イエス様に感謝することが出来る状態を「救い」、「救われた」というのです。

そのためには、やはりサマリア人の信仰が必要なのです。その信仰とは、出来事の背後に神様の働きを見る目、とも言い換えることが出来ると思います。出来事の表面だけ、結果だけに注意をすることから、その出来事の背後で働かれる神様に目を注ぐ必要があるのです。

私達は病気が治る、求道者が起こされる、仲の悪かった人と仲良くなれる、そういうことを喜ぶわけですが、その出来事の背後で働いてくださる神様に目を向けることがなければ、ダメなのです。そして一生懸命努力したけれども、その結果、自分の思うようにならないことが起こったとしても、その背後でストップをかけておられる神様を発見することが出来たならば、そこが「救い」の入り口だと今日の福音書は、示しているのではないでしょうか。

お祈りしたけれども、神様は私の望むように答えて下さらなかった、と言う前に、その出来事、結果の背後で、神様が何と言われているのか。それを見る目、聞く耳を与えられたいと思います。

（神戸教区主教）